

札幌トヨタ自動車は引き続き「持続可能な農業支援プロジェクト(札幌トヨタスタイル)」を実施します

2026年6月3日(水)

札幌トヨタ自動車株式会社(社長:相茶 省三)は、脱炭素社会の実現に向けて「水稻栽培における中干し期間の延長」に挑戦する稲作農家を支援する「持続可能な農業支援プロジェクト(札幌トヨタスタイル)」を、昨年に引き続き、当別町の桧山農場(代表:桧山 雅一様)と提携しました。2024年からスタートした本プロジェクトは今年で3年目となり、2025年は1.03トン(予定)、2024年は0.4トン、累計1.43トンの温室効果ガス排出を削減いたしました。

J-クレジット(※1)創出に寄与する弊社の稲作農家様支援スタイルが地域貢献の一手法としてより一層地元企業様に認知され、さらに支援の輪が広がることで、農業由来の温室効果ガス排出削減に資する取り組みが道内で広く普及することを願い、これからも本プロジェクトを継続してまいります。

今年度、弊社は、事業活動に伴って排出した約5,000トン/年の温室効果ガスのカーボンオフセット(企業が事業活動等で削減しきれない温室効果ガスの排出を他の削減・吸収活動で相殺する仕組み)に活用するため約100トンのJ-クレジットを購入いたします。購入先の一般社団法人スマート農業共同体(通称:SAC 北広島市)(※2)は、スマート農業や新技術等による北海道農業の持続的発展に向け活動されており、その主旨に賛同し、応援することを目的に選定いたしました。

(※1) J-クレジットとは、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入、森林整備等により実現した温室効果ガスの削減・吸収量を、国がクレジットとして認証する制度です。本制度を通じて、企業はクレジットを購入し、購入したクレジットによってカーボンオフセットに取り組むことが可能となります。

(※2) 一般社団法人スマート農業共同体(通称:SAC)については、本資料の末尾をご参照下さい。

1. 提携内容および主なイベントについて

- 提携内容 「水稻栽培における中干し期間の延長」によるJ-クレジット創出を目指した米づくりを委託
- 委託先 桧山農場 代表 桧山 雅一様 (住所:石狩郡当別町蕨岱 5684-10 TEL:0133-23-4312)
- 契約圃場 石狩郡当別町蕨岱 5687-5 (面積約14アール)
- J-クレジット創出連携先
認証・発行申請は一般社団法人スマート農業共同体(通称:SAC)を通じて行う予定です。

- イベント **(第一弾) 稲作体験シリーズ「田植え」** ※弊社社員とその家族、約60名で実施

【開催日】 6月7日(日) ※雨天決行

【開催場所】 石狩郡当別町蕨岱 5684-10 桧山農場

【タイムスケジュール】

8:45 契約圃場に現地集合

9:00 米づくり講習「人の体に優しく、地球環境に優しく、美味しいお米づくりについて」講師:桧山 雅一先生

10:00 田植え開始(午前中で終了予定)

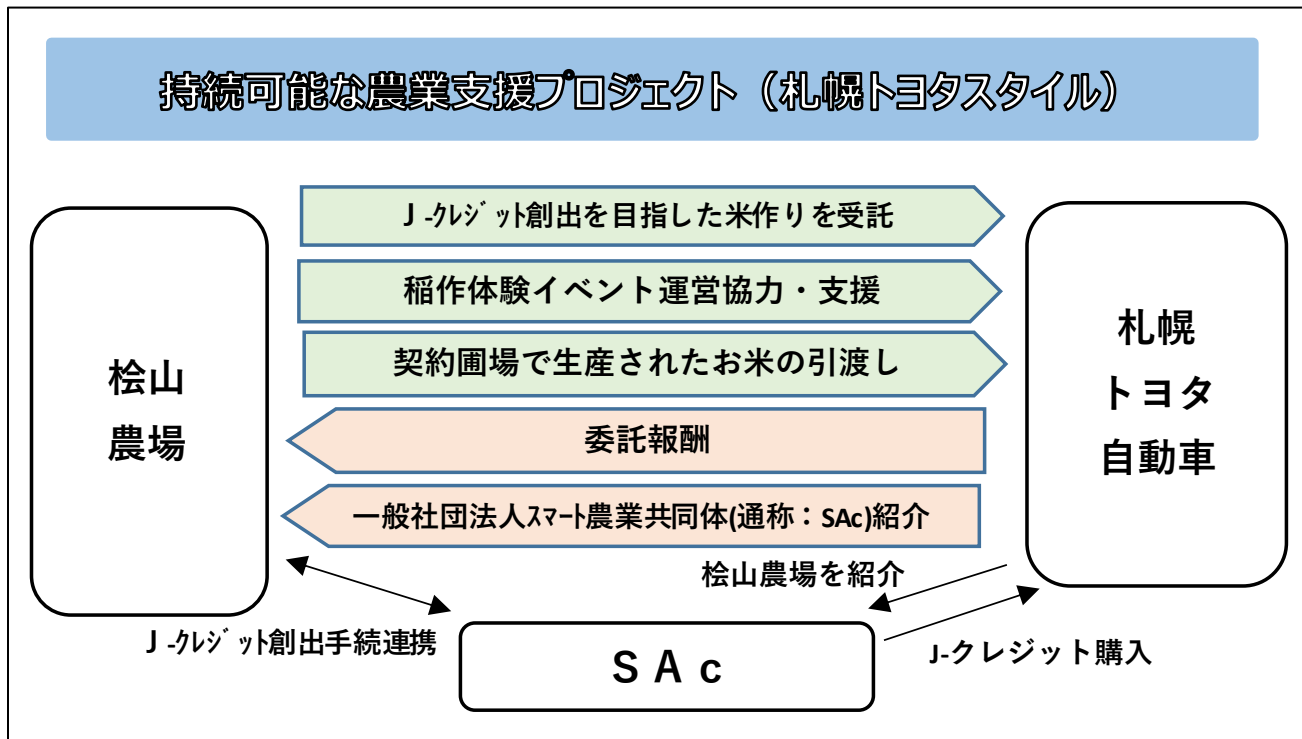
※田植えの様子を取材される方はご自由にお立ち寄りください。また、米づくり講習を受講される方は予め弊社までご連絡ください。

(ご連絡先) 札幌トヨタ自動車(株) TEL:011-231-3164 担当:総務部 庶務課 仁木(にき)・林

(第二弾) 稲作体験シリーズ「稲刈り」 ※9月中旬の開催を予定

(第三弾) 契約圃場で収穫されたお米の引渡し式 ※精米・袋詰め後の10月下旬の開催を予定

2. 「持続可能な農業支援プロジェクト（札幌トヨタスタイル）」について



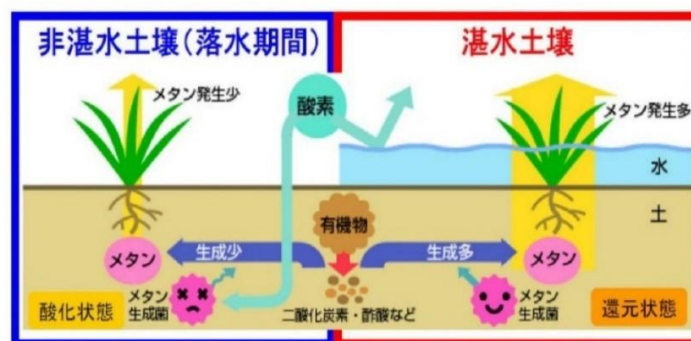
□ 新しく「水稲栽培における中干し期間の延長」に取り組み、J-クレジット創出に挑戦する農家を支援

中干し期間の延長取組みに起因するリスクへの不安を取り除くことで、農家の挑戦を後押しします。

※「水稲栽培における中干し期間の延長」の効果とリスク

(令和5年9月 農林水産省『「水稲栽培における中干し期間の延長」のJ-クレジット制度について』より引用)

農業由来の温室効果ガス排出を削減する取組みの一つに、「水稲栽培における中干し期間の延長」取組みがあります。水稲の栽培期間中に穂が出る前に一度水田の水を抜いて田面を乾かすことで、過剰な分げつ（根元付近からの枝分かれのこ）を防止し、成長を制御する作業を行います。この落水期間を長くすることで、水田から温室効果ガスのメタンの発生を減らすことができます。一方で、分げつが過剰になると、穂に十分な栄養が行き届かず、収量や品質の低下を招き、逆に強すぎる中干しは根を痛め、幼穂形成期以降の生育を阻害することにより、収量の低下を招き、また、寒冷地では地温が低下しやすくなるため冷害の原因となるといったリスクもあります。



(図の出典：農研機構)

□「札幌トヨタスタイル」の支援方法

「水稲栽培における中干し期間の延長」による J-クレジット創出の取組みの障害となっている農家のリスクを、弊社が事実上担保することで、農家が当該取組みにトライアルすることを後押しいたします。

具体的には、以下の内容の委託契約を提携農家と締結いたします。

- ・「中干し期間の延長」を取り入れた稲作を実施し、J-クレジット創出に取り組むことを農家に委託
- ・契約した圃場で収穫された生産米は弊社に帰属する
- ・契約圃場にて収穫された米の品質および収量の結果は問わない
- ・契約した圃場にて弊社が行う「稲作体験（田植え・稲刈り等）イベント」について、その運営を農家が支援する
- ・上記委託契約の包括的報酬として、双方で予め合意した対価を弊社が支払う
- ・J-クレジット創出の連携会社として SAc 社(弊社が農家への支援・協力を要請する企業)を紹介

なお、桧山農場は 2024 年より当該トライアルを実施し、農法についての懸念が払拭されたことから、2025 年以降においても弊社支援を受け、J-クレジット創出の取組みを継続実施することとなりました。

□プロジェクトの目的

札幌トヨタ自動車および札幌トヨタグループは「私たちのまちの人々が幸せに暮らせる未来を創造する」ことを標榜し、以下の思いをカタチにする取組みを実行しています。

1. 脱炭素社会の実現に向けて

- ・事業活動を通じてカーボンニュートラルに挑戦
- ・地方創生を応援し、地域の皆様と共に知恵をしぼり、汗をかく

2. 安全、安心、そして幸せを量産できる未来のモビリティ社会を創造

- ・社会課題に対し、モビリティサービスでソリューションに貢献する

3. このまち一番のお店へ

- ・地域の皆様と共に、このまちをもっとよくする
- ・地域の皆様、そしてお客様から頼られるお店になる

2024 年度の日本の温室効果ガス排出量は、10.46 億トン（CO₂換算）で、このうち、農林水産分野は約 4.4%(4,638 万トン)の排出量とされています。また、GMP（グローバル・メタン・プレッジ）において世界全体のメタン排出量の削減目標（2030 年までに 2020 年比 30%削減）が掲げられています。日本のメタン排出量の約 4 割は稲作由来であり、稲作における削減取組みの拡がり目標達成に不可欠であると認識しております。

北海道における水稲作付面積は約 9 万 400 ヘクタール(令和 7 年産)であり、オール北海道の取組みとなれば、相当量の温室効果ガス排出削減効果が期待できます。

弊社は、本年 9 月 15 日に創業 80 年を迎えます。共に歩んできたこのまちの未来のために、持続可能な脱炭素社会の実現に向けて、私たちにできることを一步一步前へ進めてまいります。

稲作関係者のみならず地域社会のなかで、「中干し」による J-クレジット創出への理解が深まり、取組みを支持する機運が高まることにより、「地球環境に優しい水田」が道内に広く普及することを願っております。

<一般社団法人スマート農業共同体（通称：SAC）について>

一般社団法人スマート農業共同体（通称：SAC）は、「農業」をキーワードに、農業者と企業、団体、行政機関などが「つながる場」として活動されており、「北海道農業の持続的発展に向けて、スマート農業等の先進的発想や技術、志を持った企業体や研究機関、行政、生産者等によるネットワークを構築し、スマート農業や新技術等を北海道農業の現場へ実装していくことを目的とする。」という基本理念を掲げている北海道に根ざした団体です。

環境再生型農業を推進する手法の一つであるスマート農業の現場実装に向け、会員間による実証実験や各種イベントの開催のサポートや、持続可能な農業の実現に貢献する取り組みとして、「J-クレジット制度申請サポート」を行っております。生産者（一般会員）が「水稲の中干し延長を方法論とした取り組み」により創出したカーボンをクレジットを、企業会員が購入し、生産者に収益として還元する仕組みにより、SAC コミュニティ内での「クレジットの地産地消」を目指しています。

<お問い合わせ先> 札幌トヨタ自動車株式会社 TEL：011-231-3164

総務部 庶務課 仁木 晴菜・林 良春